

人社系を中心とした融合研究はどのように創出されるか

—— 京都大学における先例調査

P10

藤川二葉*、水野良美*、福田将矢*、横江智哉*、稲石奈津子*、一色大悟**、宇佐美文理*
 (*京都大学学術研究展開センター (KURA)、**東京大学附属図書館U-PARL)

背景

- 融合研究、学際研究といった学術分野をまたいだ研究（文理融合、「総合知」など）への要請のもと、学術行政・各大学において推進施策が盛んに進められている
- しかし、実現するうえで様々な課題が指摘されている
- これらの施策が実施され始める1990年代以前から、京都大学では自由闊達な研究活動によって専門分野の枠を越え、新たな学術的地平が切り開かれてきた

施策と実際の研究現場とのギャップ：融合研究が立案され、実施され、持続される過程について施策推進サイドでの理解が及んでいない

京都大学学術研究展開センター人文・社会系部門 2023年度事業
「京都大学における人文社会科学を中心とした融合研究の先例調査」

- 目的**
- 京都大学の人社系を中心とした分野融合的研究創成についてその結果ではなくプロセスを明らかにする
 - 京都大学の人社系研究の強みの一側面を理解する
 - 融合研究創成のプロセスと京都大学の強みに即した研究力の強化方針を提示する

問い 「京都大学において、いかにして研究者たちは人文社会科学を中心とした融合研究を創出してきたのか？」

方法

- 『京大百年史/百二十五年史』の記述をもとに**7部局**（右表）を選定。
- 有識者・経験者に対する**ヒアリング（17件）**
- 沿革史、部局刊行物等を中心とした**文献調査（約100件）**
- 月1回の調査報告会開催

インタビュー対象者一覧（敬称略）

文学研究科	上原麻有子、藤田正勝、松田素二
法学研究科	土井真一、村中孝史
人間・環境学研究科	齋木潤、木下富雄、林哲介、高橋由典
総合生存学館	川井秀一
人文科学研究科	菊地暁、大浦康介、富谷至、高木博志
東南アジア地域研究研究所	田中耕司、河野泰之、マリオ・ロベズ
大学文書館	西山伸
学際融合研究推進センター	宮野公樹

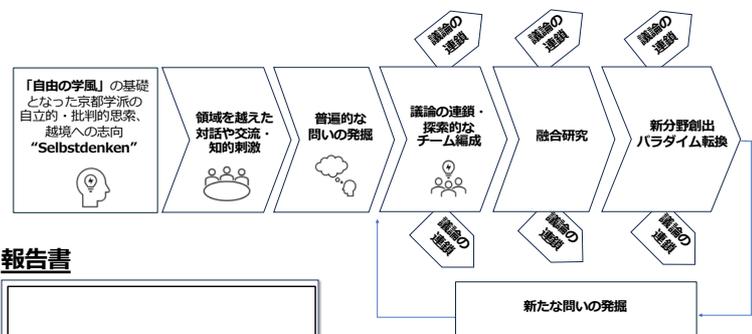
調査対象文献

全学	京大百年史、百二十五年史
人間・環境学研究科	教養部・総人・人環の部局広報、教養部改革の報告類等
東南アジア地域研究研究所	東南研二十五年史、三十五年史、五十年史、所報等
農学研究科	農学部四十年史、七十年史、八十年史等
人文科学研究科	人文研五十年、共同研究報告書序文、東方学報、人文学報等

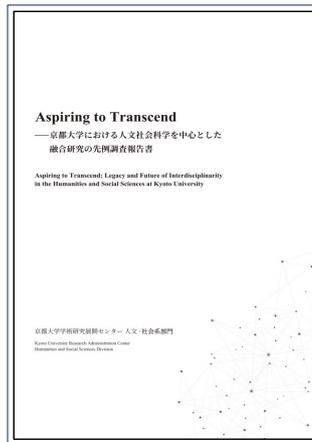
調査結果

- 京都大学における人社系を中心とした融合研究は、**学術分野間の対話を通じた世界観の交換**により、新たな言説空間を構築した
- 「京都という濃密な空間」を基盤に、施設や制度に工夫を加え、研究者間の交流が密であった
- 研究者の内発的な関心に応じて探索的チームを柔軟に形成した
- そこから質が高く分野を越えた問いと議論の連鎖が生み出された
- 学界および社会のパラダイム転換、新領域創成を促すこの議論の「場」は、融合研究の方法であり成果でもあった**
- 京都大学の「自由の学風」が、既存の通念や評価軸を超えようとする意志として研究者に共有されていた

人社系を中心とした融合研究創成のプロセス



報告書



Aspiring to Transcend
 —— 京都大学における人文社会科学を中心とした融合研究の先例調査報告書
 京都大学学術研究展開センター 人文・社会系部門
 2024年3月25日



報告書仕様
 判型：A4
 頁数：96頁

こちらのリンクからフリーでDLできます！

提言（研究力強化方針）

- 研究者の内に発する、越境への意志を尊重する
- その越境を捉え明示し、評価する方策を検討する
- 研究者同士の対話を促進し、その探索的な議論を継続するための支援制度を設ける
- 学生等の職業的研究者以外も巻き込んだ議論の場を設定し、多様な分野を包摂しうる普遍的な問いの発掘を促す
- 広く社会へと議論の場を拡張する方策を検討し、社会的インパクトの強化を図る

本調査をふまえて実施中の事業（例）：

分野横断的対話の場の創出



「百万遍サロン」研究者同士の交流
 内発的な関心にもとづく対話の場の設定



対談企画「文理の森」研究者×研究者
 文系・理系研究者による対談の収録・公開



「百万遍談議」学部生同士の交流
 学部学生による専門を超えた対話の場の設定

